

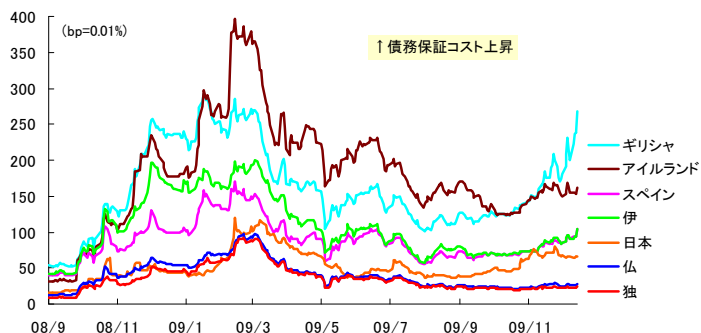
ギリシャ格下げとユーロ

- ✓ ギリシャの格下げは懸念材料ではあるが、ユーロ圏全体への危機伝播の可能性は低いと見る向きが多い模様。
- ✓ 信用市場の独、仏の安定を考慮すると為替市場はやや過剰反応と見ることも可能。

格付け会社フィッチが12月8日にギリシャの長期ソブリン格付けをA-からBBB+に引下げたのに続き、16日にはスタンダード・プアーズ（S&P）もA-をBBB+に引下げました。これを受けて、国債の債務不履行をカバーする保険料ともいえるCDSスプレッド市場でギリシャの同指標が急拡大しています（図表①参照）。為替市場でもユーロ/円が下落しました。ユーロ圏内では、2009年のアイルランドの格下げがありました。その度にユーロ/円は調整を繰り返してきました。しかし、その後の展開を見ると、このテーマが長期間に渡るユーロの下落要因にはなっていないようです（図表②参照）。

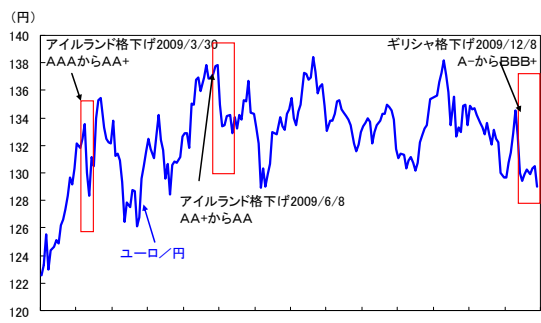
ユーロ圏の主要国である独、仏、のCDSスプレッドは低位安定しており、現段階ではギリシャ問題がユーロ圏全体の信用問題・流動性問題に伝播すると見る向きは少ないと示唆されているようです（図表①参照）。経済規模（ユーロ圏全体のGDPに占める各国の割合）から見ても、独、仏だけでユーロ圏の約4割にも達するのに対し、ギリシャは2%程度の比率しかありません（図表③参照）。また、世界の国債市場に占めるギリシャ国債の比率は、約1%程度であり、ギリシャの危機がユーロ圏を經由し、世界に伝播する可能性も現段階では限定的と見る向きが多いようです（図表④参照）。ちなみに、格付け会社ムーディーズは12月2日に「投資家によるギリシャの流動性問題を巡る懸念は誇張されている」との声明を発表しているようです。

【図表①】



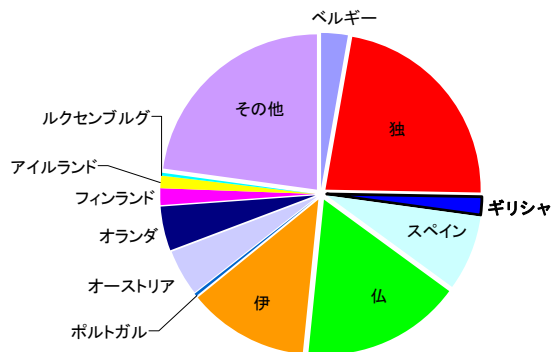
出所:ブルームバーク

【図表②】



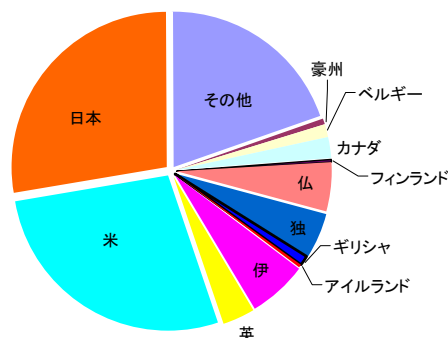
出所:ブルームバーク

【図表③】ユーロ圏全体のGDPに占める各国GDPの比率



出所:ブルームバーク

【図表④】世界の国債発行額に占める各国の比率



出所:BIS

ご留意いただきたい事項

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。
- 投資信託は値動きのある資産を投資対象としており、基準価額は変動しますので、これにより投資元本を割込むおそれがあります。ファンドによって投資対象資産や投資規制、投資対象国などが異なるため、リスクの内容や性質が異なります。また、投資信託のお申込時、保有期間中、およびご換金時には費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料に記載されている各指数、統計資料等の著作権・知的財産権その他一切の権利は、各算出先、公表元に帰属します。
- 当資料に記載されている内容は発行日現在のものであり、今後予告なく変更される場合があります。投資に関する最終決定はお客様ご自身でご判断ください。
- 当資料のグラフ・数値等は過去の実績であり、将来の市場環境の変動や投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。



ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第369号
加入協会:(社)投資信託協会、(社)日本証券投資顧問業協会

